

(様式第4号)

上田市総合計画審議会（第4回市民生活・環境部会） 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第4回 市民生活・環境部会）
2 日時	令和元年12月17日 午後1時30分から午後3時56分まで
3 会場	旧市民会館 2階 第3・第4会議室
4 出席者	樋口盛光部会長、関川久子副部会長、内堀敏高委員、岡田忠夫委員、高橋伸英委員、田中利喜夫委員、藤川まゆみ委員、水出秀子委員、宮入一枝委員、宮下勝久委員、宮島博仁委員、矢島昭徳委員
5 市側出席者	山口生活環境部長、峰村資源循環型施設建設推進参事、藤澤都市建設部長、越消防部長、柏木上下水道局長、柳沢生活環境課長、佐藤資源循環型施設建設関連事業課長、土屋廃棄物対策課長、北島ごみ減量企画室長、小宮山住宅課長、馬場管理課長、三浦土木課長、嶋尾都市計画課長、竹内交通政策課長、三井建築指導課長、春原空家対策室長、若林建築課長、堀池中央消防課長、佐藤消防総務課長、宮島消防予防課長、城下経営管理課長、山口サービス課長、小井土上水道課長、藤極下水道課長、越浄水管理センター所長、田中危機管理防災課長、高見澤森林整備課長、松木生活環境課生活安全担当係長、両角管理課庶務係長、青井経営管理課庶務係長、齋藤消防総務課総務担当係長、星野危機管理防災課危機管理防災担当係長、茅野森林整備課森林整備担当係長、竹下土地改良課管理計画係長、古畑観光課観光政策担当係長、宮入都市計画課景観緑化係長、田端健康推進課主査、田中政策企画課主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和元年12月19日

協 議 事 項 等

1 開 会（柳沢生活環境課長）

2 部会長あいさつ（樋口部会長）

3 議事

（1）分野別意見聴取について

上田市消防団 副団長 福澤 賢治 氏
本部長 宮原 克彦 氏

上田市総合計画審議会（市民生活・環境部会）分野別意見聴取 意見・提言シートに基づき意見発表

- ・ 団員定数 2,270 人に対し、11月4日現在 2,056 人（内女性団員 94 人） 9割がサラリーマン
- ・ 運営体制を見直す時期がきている。
- ・ 分団が新入団員の確保にあたっている。
- ・ 241自治会の中には消防団員がいない自治会も出てきている。
- ・ 有事の際には、自治組織と顔の見える体制にしておかないと、避難誘導等の際に支障が出る。
- ・ 住民が防災意識を高めるためにも、住民自らが消防団の団員を確保する仕組みを作っていただきたい。
- ・ 消防団に対する予算の確保や福利厚生の実を引き続きお願いしたい。
- ・ 行方不明者の捜索について、警察、消防、自治会に加え、行政担当課の協力もお願いしたい。（認知症等、施設入所者の情報など）
- ・ 詰所について、女性が参加しやすい環境を整備していただきたい（更衣室、ロッカー等）。
- ・ 危険を知らせるためのサイレン、警鐘楼の設置をお願いしたい。

- ・自主防災組織に、女性や消防団経験者の登用をお願いしたい。
- ・自治会、行政、民生児童委員、消防団、自主防災組織の名簿を整備している自治体もある。
- ・認知症の方の徘徊が多くなっているので、日頃の通報訓練等をしておかないと有事の際に生かされない。
- ・講習会に参加する方が高齢化している。親だけが知っていればいいわけではなく、小学生、中学生、高校生も知識や関心を持っていただきたい。

質 疑

(委 員) 定年制度は今もあるのか。

(消防団) 以前は35～40歳定年が多かったが、今は廃止している。

(委 員) 自治会を守る意味でも、消防団は重要と考える。
自治会に団員確保をお手伝いいただくことは有効だと思う。

(委 員) 組織的には「部」はないのか。

(消防団) 今は「班」に変わっている。

(委 員) 他の自治会の団員はわからない。

外に対し、末端まで組織を説明しないと混乱が生じてしまう。

(消防団) 「班」に名称が変わっただけで、組織的には昔から変わっていないが、引継がうまくいっていない所もあり、できれば自主防災組織や消防団OBと連携してやってもらいたい。

(委 員) 台風19号災害の時に苦勞したことを、市民と共有していければと思う。

(消防団) 自分は大丈夫だろうという考えの方が多かった。

各地域で自分たちの危険箇所はどこであったのか、検証していきたい。

(部会長) 団員確保について、消防団だけでなく、すべての団体が苦勞している。工夫して団員確保に努めていただきたい。

委員の皆さんにおいては、発表内容を後期まちづくり計画の審議に活かしていただくようお願いしたい。

議題に入る前に樋口部会長から発言あり

委員の考え方、意識を統一したい。

与えられた時間、メンバーで審議していかなければならない。

前々回、時間配分をお願いしたが守られなかった。

前回から、部会長権限で会議を進行することにした。

会議の終了時間を決めさせていただく。今日は4時までとする。

後期まちづくり計画素案の審議は今回と次回で終了することとしたい。

(2)「後期まちづくり計画」素案について

- ・今回は順番を変更し、2-2-1から2-2-5までを審議する。

2-2-1 賑わいと交流のまちづくりに向けた道路網の整備・促進

- ・資料に沿い、馬場管理課長から説明
- ・以降、協議

(委 員) 「施策の方向性・展開」1-②-1で、台風災害により、国道254号が陥没したが、表現

はこのままか。

(事務局) 「早期整備」、「安全確保」で読み取っていただきたい。

2-2-2 「乗って残す」「乗って活かす」を基本とした公共交通の活性化

- ・資料に沿い、竹内交通政策課長から説明
- ・以降、協議

(委員) 台風19号災害の時に、鉄道会社、バス会社、タクシー会社との連携がうまくいかなかったもので、行政が間に入り、話し合いの場がもてる体制づくりに協力していただきたい。あわせて、「各主体に期待される主な役割分担」で、公共交通事業者の記載を検討していただきたい。

(事務局) 上田市公共交通活性化協議会の部会として設けることを考え、記載も変更したい。

(部会長) 文言は修正していただくが、総合計画は上田市の最上位計画であるため、実質的には核となる個別計画で決めていくのが本来のスタイルであるのでよろしくお願ひしたい。

2-2-3 安全・安心に暮らせる環境の整備

- ・資料に沿い、三浦土木課長、小宮山住宅課長、嶋尾都市計画課長、春原空家対策室長、竹内交通政策課長から説明
- ・以降、協議

(委員) 「達成度をはかる指標・目標値」で、橋梁修繕の目標値69橋の根拠は何か。

(事務局) 昨年度調査が終了し、なんらかの手を入れなければいけない橋梁が69橋。

(部会長) 上田市には管理する橋梁はいくつあるのか。

(事務局) 市道橋だけで1,056橋ある。

2-2-4 緑豊かな魅力ある都市環境の創出

- ・資料に沿い、嶋尾都市計画課長から説明
- ・以降、協議

(事務局) 「現状と課題」2番目に「緑の多面的な機能」という表現を盛り込むことを検討していきたい。

(部会長) 次回の審議の対象とする。

2-2-5 安定した経営による上水道・下水道事業の継続

- ・資料に沿い、城下経営管理課長から説明
- ・以降、協議

(委員) 「施策の方向性・展開」1-②-1で「支出に見合った収入を確保できるよう適正な料金設定を行います」とあえて入れてあるのは、これから支出が増えていくことが見込まれるためか。

(事務局) 施設が老朽化している。耐震化、風水害への対策も必要である。人口減少により、収入が下がっている。収入が下がり、支出が上がる中で水道事業を継続していくために、適切な料金設定を行うもの。

(委員) 他から収入を得るのではなく、水道事業で成り立つような料金設定をするということか。

(事務局) まず、事業の見直しなど、不要な部分を削減する。起債を起こす方法もあるが、返していかなければならず、将来世代に負担がかかり、経営を圧迫する要因にもなる。状況を見ながら料金改定をお願いする場合もある。

(委員) 「施策の方向性・展開」4-①-4で、消化ガスの有効利用の利活用を継続するという書き方でいくのか。

(事務局) 消化ガスを活用していくことが得策であるのか、今後検証していく。

(部会長) 「施策の方向性・展開」2-①-1で、記載はそのままでいいが、「熟練職員から若手職員への技術指導による技術継承」とは具体的には。

(事務局) 管網が市内1,026kmもあり、水圧の管理、給水区域の変更等、経験しないとわからない知識があり、熟練職員から若手職員へ技術継承を行うもの。

(部会長) 時間があるので、委員の了解がいただければ次の2-2-6まで進みたいがいかがか。ただし、午後4時までには終了させる。

特に異論なし

2-2-6 犯罪や交通事故のないまちづくりと消費者被害防止の推進

- ・資料に沿い、柳沢生活環境課長から説明
- ・以降、協議

(委員) 「達成度をはかる指標・目標値」で、地区防犯協会の「地区」とは、自治会連合会の単位でよいのか。

(事務局) 現在設立している7地区は、自治会連合会の単位となっている。

(委員) すべての自治会連合会に防犯協会を設立することが望ましいと考えているのか。

(事務局) すべての自治会連合会に設立することが理想。

(委員) まちづくり協議会などと連携することが重要である。連携を取れるようなことがあればいいと思う。

(事務局) 関係機関とも連携を取りながら対応していきたい。

(部会長) 総合計画でなく、個別計画の中で施策の検討が必要かと思う。

(委員) 「達成度をはかる指標・目標値」で、シートベルト着用率の調査方法を教えていただきたい。

(事務局) ある一定の場所で、一定時間調査を行う。後部座席については、着用率が低いので、着用率向上を進めていきたい。

全体的な意見として

(委員) 各個別の計画を総合的に結び付けたものが見えない。

例えば、2-2-1から2-2-4では、2-2-1では「賑わいと交流のまちづくりに向けた道路網の整備・促進」、2-2-2では「乗って残す・乗って活かす」を基本とした公共交通の活性化」、2-2-3「安全・安心に暮らせる環境の整備」の中には「歩いて暮らせる健康都市づくり」や「各拠点を公共交通などで連携したネットワークの充実」とあり、2-2-4「緑豊かな魅力ある都市環境の創出」で歴史的な街並みの保全や歴史的景観の維持が謳われていて、個別には色々と施策が書かれているが、それを総合したようなものがない。例えば、公共交通を活かすことと車道を整備することについて、ある所では整備することが必要であるが、逆に車を入れない又は行きにくくすることで公共交通を使ってほしい所の住み分けをすること。公共交通を使った賑わいと交流のまちづくりは上田駅の周辺が中心だと思うが、そこから市役所、上田城、サントミュージーゼまでのルートを整備する

とか、どこを賑わいと交流の中心拠点として、そこにどうやって人を誘導するとか、総合的なものが見えないと感じている。街の魅力づくりといったソフトは市民生活・環境部会ではなく、産業経済部会や教育文化部会の話かもしれないが、商業施設の活性化、魅力ある商店街づくりといったときにどうやって人を誘導するか、市民生活・環境部会で議論していることと連携しないとうまくいかないと思う。全体のビジョンに対して集約的に各施策をどう統合していくか、他の部会で考えている施策とどうあわせて作っていくか、他の部会との連携はどれくらい進んでいるか。

(部会長) 総合計画の中で、各部会で審議していることが「後期まちづくり計画」素案にどう盛り込まれるかはわからないが、コンパクトシティと立地適正化計画については、都市計画審議会でも議論しており、総合計画 p60「上田市の将来都市像の概略」はある程度できている。この中で、各部会を盛り込めると精度はよくなる。ただし、立地適正化計画に対してはある程度一定の原案ができているので、どう反映させていくかは行政に委ねるしかない。リンクさせての現実性までは議論されていないが、立地適正化計画に盛り込んでいくことは可能だと思う。

(事務局) 実施段階においては、関係する部署で協議をしながら進めていく。

(部会長) 一番関係する都市建設部の職員が途中退席していないので、次回、コンパクトシティや立地適正化計画と総合計画との整合性、位置関係、連携がどうやってとれるか、一応回答を都市建設部で願います。

(委員) 実施段階でも連携はもちろん必要だが、計画を立てる段階で連携が必要だと思うが。

(事務局) 細かい事業の連携については、実施計画のところで連携を取りながら実施していくが、後期まちづくり計画でも反映できるものは反映していく。ただし、構成は維持しつつ文言を盛り込んでいくことでお願いしたい。

(委員) 目標値の設定が、仕方なく地続きになっているものもあるが、バックキャスティングによるものか疑問である。次回審議する 2-1-3「地球温暖化防止対策と再生可能エネルギーの利活用の推進」は目標値を描くことが決まっています。数値上はバックキャスティング可能であると思う。

(事務局) 前期まちづくり計画検証シートの中で、検証して目標値を設定している。次回バックキャスティングの視点も含めて説明する。

(部会長) 今回は 2-2-7 を冒頭に回し十分な審議時間をとりたい。

(3) その他について

事務局からは特になし

4 事務連絡

(事務局) 第 5 回の部会は、1 月 22 日（水）午後 1 時 30 分から 消防本部 3 階大会議室で行う。

(部会長) 次回までに追加で御意見がある場合は、事務局まで提出すること。

5 閉会（柳沢生活環境課長）

（閉会時間 午後 3 時 56 分）